

問題なこと・心配なこと / 課題を共有

シカの食害・ナラ枯れに 象徴される森の荒廃

- 食害で植物の多様性が守れない
根こそぎ食害を受ける
他の生物への影響も心配
- シカ食害とナラ枯れで本来の木々の姿がみられない
- 歴史のあった山城原野が失われた
- 次世代の木が育っていない
- シカが増えて、ヤマビル、ダニが多くなった。山水の大腸菌も増えている。
- 密度が高すぎる。宝ヶ池全域でシカは3頭が限界(⇒頭数管理が必要)
- 駆除したあとの場所と食べる仕組み
- サルやイノシシ、鳥の害もある

シカ対策が必要

一筋縄ではいかない状況

山の大部分を柵で囲うことができるのか
シカが歩けないような、
森の整備にできないか

- シカの数をもどのように減らすか?
- 鹿ネット以外の方法はないか?
宝ヶ池に限定するのなら解決方法もあるかもしれない...
- どのように囲うのが効果的か。
- 宝ヶ池の山は多くの土地所有者がおり、それらの調整が不可欠。難しいが...
(深泥池では、土地所有者の関係で柵が貼れず、水生生物の保全が難しい状況)
- 山だけをフェンスで囲うことが良いのか?
- 人がもっと入れればシカは寄らないか?
- シカ対策犬を使う
(EX)夜中に放す、近隣で声かけ散歩)
- 市民ができるナラ枯れ対策は?

ナラ枯れ・松枯れ対策

シカ対策：
パッチディフェンスからスタート/シカをとる

人が森とかかわらない

- 若い世代の森林(自然)離れ
- 森や里山に重要性を見出さない。
無関心すぎる。

★山の資源を使わない

- 大きく育った松やナラが利用されず枯れてしまうのは経済的損失
- 植生の変化が激しい。
シイは困る。特にツブラジイ

★山作業の担い手& 技術継承の不足

- 大径木を伐れるプロがいない
- 山の管理、炭づくりなどの技術が伝わっていない
- 山作業の事故の危険性

★危険性・マナーを知らない

- 危険な生き物を知らない
- 木の枝を折るなど 問題

防災面での不安・心配

- 斜面の土砂流出の心配
- 人家の裏山の荒廃・シイの大木化
倒木・落枝の不安

法規制・予算による制限

- 鳥獣保護区・公園であることなどによる 行動の制限 など

取り組み主体・継続性

- 誰が主体?
誰が山を管理している?
- 誰が声をかけていく? など

*こんな森にしたい!

森のイメージ

*こんなことがしたい!

美しい森
明るい森 森の恵み

- 美しい森の風景
- ツツジが残ってほしい
- アカマツ林の再生(尾根)
落葉広葉樹林(斜面)
- マツタケ再生(一部でも)
- 花も虫も多い森

生きものとの共存

- 多様な生物がすむ森
- 人にとって快適で、生物多様性もある森
- いろいろな生き物に出会いたい。
- シカもカシナガもクマもキジもバランスよくいてほしい

気軽に入れる
安心して迷える

- 市民が自由に入れて使える森
- 遊歩道が整ったウォーキングが楽しめる森

★みんなの入会地

- 生活の中で利用できる学べる
- ★子どもが自由に遊ぶ・学ぶ
- 子どもの笑顔であふれる森
- 地域の子もたちが気軽に入れる

木材の利用がつくる森

- 森のめぐみを得ることで活性化された森
- 木材の利用により美しい森へ
- 公園の電気が木を使った発電で

★里山回帰

ハイキングや散歩

- 明るい森を散歩したい
- 森のムッシュ活動やツーリーイング
- 健康づくり

自然観察・体験

- 五感をつかって楽しむ・味わう
- 昆虫採集が自由に行える森
- 里山について知る・学ぶ

★昆虫採集・虫取り少年

木を利用する 炭をつくる

- ～間伐材・ナラ枯れ木の利用～
- 炭窯をつくる ●木材を地域で循環
- ナラ枯れのコナラ・アハマキを炭にする
- バイオマス利用

★木材の地産池消

歴史・文化を伝える

- ～歴史を記録する～
- エネルギー革命前の里山利用について、地域性を含めた資料を残す。
- 松ヶ崎城に関わるゆかり
- コナラ灰汁利用のいろいろ
(伏見のお酒づくりへの利用など)
- 宝ヶ池、松ヶ崎城に光を当てる
- 地域の伝統行事を伝える森へ

★文化とともに伝える

- もっと薪や炭を利活用する。
- 活性炭化による水浄化
- 薪ストーブで料理

森を知る・学ぶ・利用する

人が関わり続ける必要性

消費でなく自分でかかわる

- 楽しめる活動がつながっていく

関わる次世代をそだてる

- 親世代の意識高揚
- 子どもたちと遊びながら森の役割や日本の文化を伝えてゆく。
- 親子で自然と遊びながら文化・伝統を継承する
- 子どもと発見を共有する。

環境学習の展開

- 全学校で里山活動を授業に利用
- 地元の農事や木の利用をプログラムに

行政に向けての発信

- 行政の目を宝ヶ池に
- 制限を取り払う
- 横の連携を

★コンビネーション
コラボレーション
コミュニケーション

トラスト的取り組みの必要性

★財源継続的確保

- 観光地でないところにお金が入る仕組み
財源の手当て・森林所有者の手助け
- お金のサポート ○作業のサポート
大きなシステムの中で展開する
- 所有者との関係調整

★ルール

ソフトの運営拠点をつくる

- ★森のセンター
- 案内ボランティアが案内役に
- 工作づくりイベントなどできる体制
- 薪ストーブを利用

★森への興味誘発

- 初心者にわかるように樹木の表示板設置
- マップなどを充実。外国語版も作成し世界へ発信
⇒案内・体験・工作・イベントなどの充実へ
- 森や里山を好きになってくれる子どもを育てる

宝ヶ池だけで閉じない対策

人材のネットワークをつくる

- ★ファンクラブ
- 会費と福利・寄付も受け付ける
- ボランティア/メンバーを募る
- ホームページなどWebで発信する
⇒ホームページ・広報の充実

★プロ・ボランティア・住民

情報発信・意識向上
世界とつながる宝ヶ池

計画の必要性

木・山の管理

- 利用と育成
里山利用するエリアと天然更新を促すエリアの両方を維持する

森林所有者、地元、利害関係者、国、市、それぞれの団体が対等の立場で森林計画の企画、立案、実行、検証を実施。

- 木の伐り方 など
- 人材育成
- 施行費用の確保

★シカ・ナラ枯れ対策

PDCAのしくみ

仕組み・体制づくり

必要なこと・できること*提案

新しい「物語」「伝説」がつけられる